



春のセンバツ出場に続き、またしても専大松戸が快挙を成し遂げた。全国レベルの強豪校が出場した「春の関東大会」で見事優勝を果たしたのだ。投打ともに最高の仕上がりを



文武両道の専修大学松戸高校野球部。授業を最後まで受けた後、串崎新田の野球部専用グラウンドにバスで移動して全体練習・自主練習。甲子園に向けて、準備は万全だ。

# 目指せ甲子園

## 関東王者!! 専修大学松戸高校野球部

せる関東王者が全国制覇を目指す。

夏の大会を目前に控えて、最終調整に余念が無い専大松戸ナインを取材してきた。

### 初の甲子園春夏連続出場に挑む

例年打撃力に定評のある専大松戸だが、今年の打線は過去最強と言っても過言ではない。

センバツ直後に行われた春の県大会では5試合で41得点、続く関東大会では4試合で25得点と強力打線が爆発した。

センバツから打順を大幅に入れ替えた持丸監督の采配が功を奏した。

打線の要は1年生からスタメンで活躍してきた吉岡道泰外野手(3年)。180センチ80キロと体格にも恵まれチーム一の俊足を誇る。センバツ後に4番から打順を上げ長打も打てる2番打者として脅威の存在に成長した。

「吉岡の打撃が勝敗を左右する。」と持丸監督の信頼も厚い。先取点の口火を切るのは1番を打つ石井詠己主将(3年)だ。春の県大



最終調整を行う専松ナイン。

会では打率5割を記録し本塁打も打てる強打者である。3番の大森駿太郎内野手(2年)は中学時代U-15日本代表にも選出され、2年生ながらその才能を発揮し県大会でも活躍した。4番の奥田和尉外野手(3年)も関東大会で打率5割を記録した。下位打線にも長打力を持つ選手が揃う。7番には関東大会で2本の本塁打を放った185センチの大型打者加藤大悟捕手(3年)。9番には170センチながら本塁打を放つパワーヒッターの荻部力翔外野手(3

年)が座り、どこからでも点をとることができる強力打線が完成した。

投手陣も昨秋と比べ見違えるほど力をつけてきた。注目はドラフト有力候補の深沢鳳介投手(3年)。右サイドから投げると143kmのストレートに加え、スライダー、カーブ、チェンジアップと、巧みな投球はバッターに的を絞らせない。センバツではプロ注目の畔柳投手を擁する中京大中京に0-2と惜敗したが7奪三振を記録している。「7回に打たれたホームランの一球で勝負が決まった。一球の重さを感じさせられたことで投手として一回りも一回りも成長できた。夏を勝つためにここまで頑張ってきたので関東大会の優勝は通過点に過ぎない。甲子園で勝ちたいという思いが強くなった。」と深沢君は力強く話した。そのエースを支える2番手は、先発としても中継ぎとしてもオールラウンダーとして力を付けてきた岡本陸投手(3年)だ。

昨秋136kmだったストレートは今春には144kmまで成長した。関東大会では深沢君を温存させながら優勝へと導いた立役者だ。



定評ある専松打線は今年も健在だ。

3番手には関東大会の決勝戦が初登板となった中館宙投手(3年)が名乗りをあげる。

昨秋の関東大会ではベンチ入りできず「このままではいけない。」と危機感を覚え、課題の制球力に磨きをかけ、決勝のマウンドでは関東第一を相手に7回まで無失点の力投を見せた。大量得点を生み出す過去最強打線とエース深沢君を中心とする強力投手陣で春夏連続の甲子園出場と初の全国制覇を目指す。

### 専修大学松戸高校 野球部 輝く戦績

2021年	春季関東大会	優勝
2021年	春季千葉大会	準優勝
2020年	秋季関東大会	ベスト4
2020年	甲子園出場	
2020年	秋季千葉大会	ベスト4
2020年	夏季千葉県大会	準優勝
2019年	秋季千葉大会	ベスト4
2019年	春季関東大会	ベスト4
2019年	春季千葉大会	準優勝
2018年	春季千葉大会	ベスト4
2017年	春季千葉大会	優勝
2016年	秋季千葉大会	ベスト4
2015年	秋季千葉大会	ベスト4
2015年	全国高校野球選手権千葉大会	優勝
2015年	甲子園出場	
2015年	春季千葉大会	優勝
2014年	全国高校野球選手権千葉大会	準優勝
2014年	春季千葉大会	優勝
2013年	全国高校野球選手権千葉大会	ベスト4
2013年	春季関東大会	ベスト4
2013年	春季千葉大会	準優勝
2012年	秋季千葉大会	ベスト4
2012年	全国高校野球選手権千葉大会	優勝
2012年	春季千葉大会	ベスト4
2011年	春季千葉大会	準優勝